



14才の犬　　メイ

三井　環

私のうちには14歳4カ月になる柴の老犬がいる。彼女は1日の大半は眠っている。名前はメイ、5月生まれなのでこの名前が付いた。穏やかな良い性格で家族の心を癒してくれる。



まだメイが小さかった頃（7、8ヶ月の頃）、神戸市灘区伯母野山というところに住んでいたのだが、お正月にダラダラと1、5キロほどの坂道を下りて、妻と初詣に出かけたことがあった。境内では太鼓が鳴り、火がたかれ、屋台なども出て賑やかで、参拝の人も多くいたのだが、それがとても嫌だったようで、ちょっとした隙に私の手から綱をつけたまま逃げ出してしまった。1度ちらっと振り返ったが、来た道とは逆の方に走り去ってしまった。メイが見えなくなったあたりを二人は探し回り、警察に届け、当時は二人とも携帯を持ってなかったので、一緒に探してもらうべく、自宅にいる娘にも連絡した。1時間近く探し回った。行きかう人は誰も心当たりがないというし、気が気ではなかった。小一時間経っても娘は来ないし、もう1

度自宅に電話を入れると、「好物のチーズを持って、大慌てで玄関を出たら、メイがハーハーしながらそこに座っていたよ」とのことだった。未だ幼犬で初めての道を、しかも踏切があり、大きな交差点が2か所もあるのに、リードをつけたまま一目散に自宅への道を駆け上がった姿を想像して、無事でよかったと胸がいっぱいになった。あれから14年近くの月日が流れた。その間に、私が検察の調査活動費の不正流用の内部告発をして、検察は組織防衛のため、私を懲戒免職とした。私が長く勾留されたり、裁判があつたりしたのだが、家族の気持ちが少し落ち着くまで、1年ほどメイは来るべき生理が来なかったらしい。やはり家族なんだなあと思った。



まさに激動の年月を家族とともにいてくれた。普段は名前を呼んでも好物のものを見せないと寄ってきたりはしないが、娘や息子が意気消沈している時、気が付くと、そばでなめてくれていたことがあったそうだ。やんちゃな孫達にはなぜか寛大である。今は老化のため、この6月頃からは耳が全く聞こえない。異変を感じ始めた頃は不安だったのか、夜が大変だったらしい。病院でメラトニンを処方してもらい、それと一緒に家内からグルコサミン、コ

ンドロイチン、DHA などのサプリメントを1錠ずつ飲まされているようだ。足腰は今のところ大丈夫なようで、毎日4~5キロも家内と歩いている。これはお互いのために良いと思っているが、メイとしては、もしかしたら「このオバサンのための、最後のご奉公と思っているかもしれない」



連れ添ってみて柴犬は、決して意のままにはならないが、家族とともにあるという、本当に愛すべき生き物だと思っているところだ。



2012年9月1日

市民連帯の会 代表 三井 環